

データベースにおける非正規関係の設計と操作について

武田 浩一
Koichi Takeda

上林 弥彦
Yahiko Kambayashi

矢島 脩三
Shuzo Yajima

(京 都 大 学 ・ 工 学 部)

1. まえがき

近年商用化が盛んな関係データベースシステムにおいて、データベース設計の中心的な理論となる正規化理論ではオ1正規形の関係(正規関係)を前提とし更新不整合や冗長度をできるだけ除いた高次の正規形が考えられてきた。一方で、OA分野でのformを用いたデータ処理等との整合性が良い非正規関係が利用者インタフェースとして重要であるという認識が高まっている。[SHU-L8209][KITAK8201]

本稿では従来あまり考察されなかつた非正規関係の設計問題として、与えられた1つの正規関係とその関係上で成立する従属性集合から後者を反映した非正規関係の生成法を与える。このため、正規→非正規関係の変換のための基本操作とその木表現を導入する。従属性としては関数従属性(FD)、結合従属性(JD)のクラスと含意従属性(ID)のクラスを考

える。用語，記法は [ULLM80]，[KAMBT83] に従う。

2. 非正規関係の変換操作

正規 $\rightarrow$ 非正規関係の変換操作として以下の4操作を用いる。ROW-NEST, COLUMN-NEST操作は [KITAK8201] にも見られるが，本稿では両者をできるだけ独立に扱えるように定義する。各操作が適用される関係 R は属性集合 U 上で定義され， $Y_1, \dots, Y_n$ ($n \geq 0$ ， $Y_i \subseteq U$ ，任意の Y_i, Y_j に対し $Y_i \cap Y_j = \emptyset$ ， $Y_i \supset Y_j$ ， $Y_j \supset Y_i$ のいずれかが成立する) 上に局所関係をもつとする。 R が正規関係なら $n = 0$ である。今属性集合 $X \subset U$ は，(i)ある Y_i に対し $X \subset Y_i$ となり，任意の $Y_j \subset Y_i$ は $X \cap Y_j = \emptyset$ となるか， $X \supset Y_j$ となる，(ii)すべての Y_i に対し $X \cap Y_i = \emptyset$ あるいは $X \supset Y_i$ となる，のいずれかを満足するものとする。(i)の場合は Y_i ，(ii)の場合は U を操作の場とし W で表わす。

(1) ROW-NEST[X]：本操作は R の W 上の各(局所)関係 P (iii) のときは $P=R$ となる) に作用し，その各 $(W-X)$ -値 $z \in P[W-X]$ および組集合 $S_z = \{t \mid t \in P \text{ かつ } t[W-X] = z\}$ に対し $t_z[W-X] = z$ ， $t_z[X] = \{t[X] \mid t \in S_z\}$ となる W 上の組 t_z に変換した関係 P' を生成する。 W 上の(局所)関係以外は変化しない。このとき各 S_z を P の $(W-X)$ -生成部分関係あるいは単に部分関係といい，各 $t_z[X]$ を X 上の局所関係という。従って本操作により得られた関係 R' は X 上に新たに局所関係をもつ。

- (2) GROUP-BY[X] : 本操作は R の W 上の各(局所)関係に, ROW-NEST[W-X] を適用するのと等価である。ただし以後の W を場とする ROW-NEST[Y] や GROUP-BY[Y] は $Y \cap X = \phi$ ではないといけない。また任意の $Y_j \subset W$ は $X \cap Y_j = \phi$ であるとする。即ち GROUP-BY[X] は X に局所関係を含まないものとする。直観的には GROUP-BY[X] は X の値による関係の横切りにあたる。
- (3) COLUMN-NEST[A₁, ..., A_k INTO V] : 本操作は U の属性 $A_1, \dots, A_k$ を成分とする複合属性 V を定義する。 A_i が既に定義された複合属性であるときも本操作を自然に拡張できる。
- (4) RELATION-NEST[S, "name"] : 本操作は R の局所関係のうち S と等しいものをすべて "name" で指定された名前と置き換え, S を独立した関係として分離する。本操作は非正規関係が同一の局所関係をくり返して含むときに, その冗長度を減じた表現を得るのに用いられる。

3. 変換操作間の制約と操作の木表現

2 節の基本操作の系列において, ある操作は以前に適用した操作を無効にしない限り適用できないことがある。このような操作間の制約を表わし, 適切な操作系列を定めるために row-tree, column-tree, relation-tree の 3 つの木を用いる。適切な操作系列は木の変換規則として定めることができる。図 1 に操作系列と各木の例を示す。row-tree は ROW-NEST, GROUP-

BY操作, column-tree は COLUMN-NEST 操作, relation-tree は RELATION-NEST 操作を記述したものである。図中 row-tree のラベル ③ は ROW-NEST 操作の適用, ④ は GROUP-BY 操作の適用を示す。column-tree は属性の順序を陽に表わす必要から順序木とする。各木の構成法 [KAMBT83] は省略する。一般に, 非正規関係の表による表現を可能とするために, 各操作の適用は3つの木の上での次のような制約を満足したときに妥当とする。

(i) ROW-NEST[X] は row-tree において2節の W に相当する節点があり, column-tree において X に含まれる各属性を示す端節が隣接しているときに妥当とする。(ii) GROUP-BY[X] は row-tree において W に相当する節点が存在するときに妥当とする。即ち GROUP-BY 操作は COLUMN-NEST 操作と独立である。(iii) COLUMN-NEST[A₁, ..., A_k INTO V] は column-tree において各 A_i に相当する節点がありかつそれらがある1つの節点の子となっており, さらに A₁, ..., A_k をこの順で隣接して得られた端節の順序が row-tree においても実現可能であるときに妥当とする。(iv) RELATION-NEST[S, "name"] は ROW-NEST 操作, GROUP-BY 操作により局所関係 S が生成されており, relation-tree において S が2つ以上の節点の子とならないときに妥当とする。

column-tree における属性の移動や RELATION-NEST 操作における局所関係の定義は実際には MOVE-COLUMN 操作や DEFINE-RELATION

操作が必要であるが本稿では省略する。以後 GROUP-BY 操作や ROW-NEST 操作の系列の略記法として $GROUP-BY[X_1]; \dots; GROUP-BY[X_k]$ を $GROUP-BY[X_1; \dots; X_k]$ と記す。COLUMN-NEST 操作は関連属性集合を反映するのに用いるが本稿では省略する。[KAMBT83]

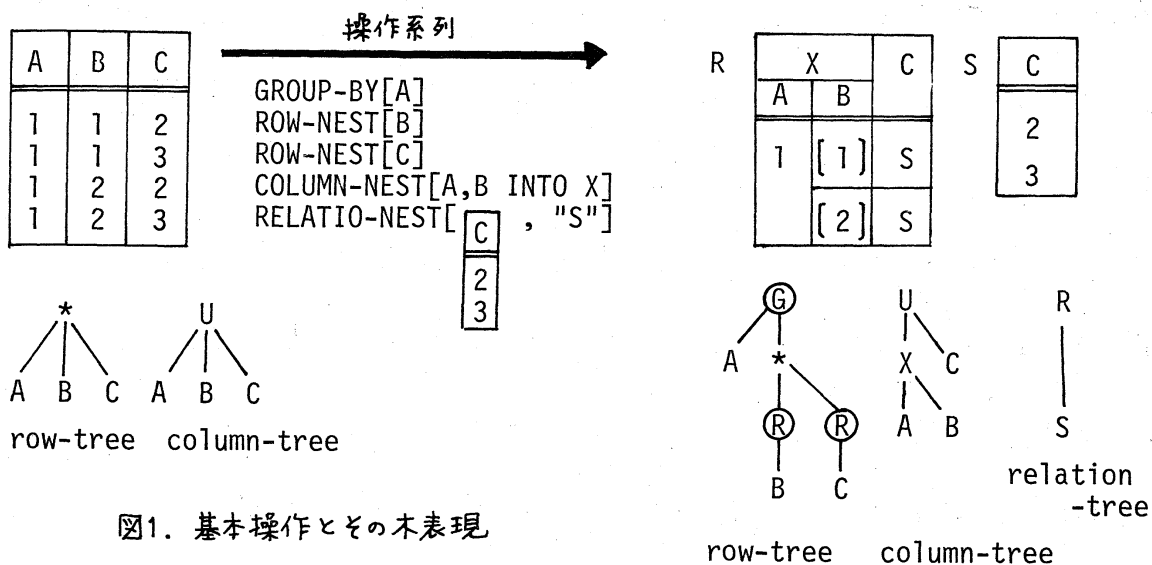


図1. 基本操作とその木表現

4. FD, JD を反映した非正規関係の生成

FD, JD および基本操作と非正規関係の対応には次の定理がある。[KAMBT83] ここでは正規関係を単に関係と呼ぶ。

[定理1] 関係 $R (R \supset X)$ に $GROUP-BY[X]$ を施して得られる各部分関係では ϕ (空集合) $\rightarrow X$ という FD が成立する。

[定理2] 関係 $R (R = X_0 X_1 \dots X_n)$ において FD 集合 $\{ X_i \rightarrow X_{i+1} \mid i=0, 1, \dots, n-1 \}$ が成立するとき (これを FD 鎖 $X_0 \rightarrow X_1 \rightarrow \dots \rightarrow X_n$ という),

$GROUP-BY[X_n; X_{n-1}; \dots; X_1 - X_2 - \dots - X_n]$

によって得られる非正規関係 $R_n, \dots, R_1$ では順に各部分関係が

$X_{n-1}, \dots, X_0$ 上の属性値集合に関して互いに素な分割となる。
特に $X_i \cap X_j = \phi$ ($i \neq j, i, j = 0, 1, \dots, n$) のときは $X_n, \dots, X_0$ 上の各属性値がただ一度のみ現われる階層的な対応となる。

〔定理 3〕 関係 R が $JD * [Y_1, \dots, Y_m]$ を満足し、 $X \subset R$ であるとする。このとき R に $GROUP-BY[X]$ を施して得られる各部分関係においてもやはり $*[Y_1, \dots, Y_m]$ が成立する。

〔定理 4〕 関係 R が $\phi \rightarrow X$ を満足すると仮定する。このとき R が $JD * [Y_1, \dots, Y_m]$ を満足することと R が潜在 $JD * [Y_1 - X, \dots, Y_m - X]$ を満足することは同値である。

JD の有用な図式表現としてハイパーグラフが用いられている。〔FAGIM 8209〕 $JD \ j: * [Y_1, \dots, Y_m]$ のハイパーグラフ G_j は節点の集合 N と (ハイパー-) 枝の集合 E から成り、 N は各属性 $A \in \bigcup_{i=1}^m Y_i$ に対し 1 つの節点をもち、 E は各 Y_i に対し Y_i に含まれる属性の節点を輪状に囲んだ枝をもつ。節点と属性、枝と属性集合は区別せずに用いる。2 つ以上の要素をもつ、 E の各部分集合 E' に対し、 E' のすべての要素の集合積をとったものを共有節点集合 (AS と略す) と呼ぶ。1 つ以上の $AS \ X_1, \dots, X_k$ ($k \geq 1$) に対し、 G_j から $X_1, \dots, X_k$ の属性を取り除き、互いに素な E の部分集合 (連結成分 CC という) の数が増加すれば、 $X_1 \cdots X_k$ を切集合 (CS) と呼ぶ。

〔定理 5〕 関係 R が $JD \ j: * [Y_1, \dots, Y_m]$ を満足すると仮定する。

G_j が AS X をもち, G_j から X を除いて得られる CC が $S_1, \dots, S_k$ となるなら, R に

GROUP-BY [X]; ROW-NEST [$S_1; \dots; S_k$]

を施して得られる非正規関係 R' の各組は, 一意な X -値と各 S_i 上にただ1つの局所関係をもつ. ($i=1, \dots, k$) さらに各 S_i 上の局所関係では $*[Y_1 \cap S_i, \dots, Y_m \cap S_i]$ が成立する.

4.1. 単-JD 仮定と非正規関係の設計

本稿では FD, JD から成る従属性集合 Σ を満足する関係 R が与えられたとき, ある1つの JD j と FD 集合 F が $F \cup \{j\} \vdash \Sigma$, $\Sigma \vdash F \cup \{j\}$ となることを仮定する. この仮定のもとでは, 定理2, 5 よりまず j を反映し, 各局所関係で成立する FD 集合 $F' \subseteq F^+$ を反映できることがわかる.

例1. 図2(a) の関係 R ($R=ABCDEF$) および $\Sigma = \{*[AB, BCD, DEF], E \rightarrow F\}$ が与えられたとする. $*[AB, BCD, DEF]$ より AS B が得られるので, B と CC $A, CDEF$ に対し

GROUP-BY [B]; ROW-NEST [$A; CDEF$]

を適用する. (図2(b)) $CDEF$ 上では $*[CD, DEF]$ が成立するので同様に AS D と CC C, EF に対し

GROUP-BY [D]; ROW-NEST [$C; EF$] を適用し, 最後に EF 上の局所関係で成立する FD $E \rightarrow F$ を反映するために

GROUP-BY [F]

を適用する。(図2(c))

(a)

	A	B	C	D	E	F
0	1	1	1	1	1	1
0	1	1	1	1	2	1
0	1	1	1	1	3	3
1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	2	1
1	1	1	1	1	3	3

{*[AB, BCD, DEF] が成立.
E → F

(b)

	B	A	C	D	E	F
1	$\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 1 \\ 3 & 3 \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 3 \end{bmatrix}$	

(c)

	B	A	D	C	F	E
1	$\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}$	$\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 3 \end{bmatrix}$

図2. 単-JD仮定での非正規関係の生成

図2. 単-JD仮定での非正規関係の生成

単-JD仮定のもとでの非正規関係の生成における問題は、一般に次のものを考えねばならない。

- (1) JD の各成分や成分にまたがる FD が存在する場合の扱い。特に JD と FD の干渉により新たな FD が含意されることがある。
- (2) GROUP-BY操作を行なう AS の順序の決定。例1の場合では GROUP-BY[B] と GROUP-BY[D] の順序はどちらが先でもよい。(結果は異なる。) 特に AS 間に包含関係がある場合には順序の決定が重要である。
- (3) 与えられた FD, JD が非正規関係で保存・管理できるか。これは非正規関係に対する更新操作やもとの関係との等価性を論じるうえで重要である。

上記の問題を4.2～4.3で考察する。

4.2. FD を考慮した JD の反映

定理 5 を利用した JD の反映過程に FD を考慮すると GROUP-BY 操作を施す AS の順序や属性集合を決定するのに利用できる。これを次の 4 つの場合に分けて考察する。

(1) 1 つの AS 内の FD

AS $X = X_1 X_2$ があり, FD $X_1 \rightarrow X_2$ ($X_1 \cap X_2 = \phi$) が成立するものとする。このとき GROUP-BY [X] よりも GROUP-BY [$X_2; X_1$] の適用により, JD の反映過程で FD $X_1 \rightarrow X_2$ を反映できるという利点がある。同様に $X \supseteq X_1 \cdots X_k$ かつ FD 鎖 $X_1 \rightarrow \cdots \rightarrow X_k$ ($X_i \cap X_j = \phi$) が成立するときも, (i) GROUP-BY [$X_k; \dots; X_1$] を適用し, (ii) もし $X - \bigcup_{i=1}^k X_i \neq \phi$ なら GROUP-BY [$X - \bigcup_{i=1}^k X_i$] を適用する, とすればよい。

(2) AS 間の FD

AS $X_1, \dots, X_k$ 内に FD が存在する場合には, それが FD 鎖 $X_1 \rightarrow \cdots \rightarrow X_k$ の場合には 4.3 で述べるように AS の順序付けに利用できる。さらに複雑な FD (例えば $X_1' X_2' \rightarrow X_3$, ($X_1' \subset X_1$, $X_2' \subset X_2$)) については (i) $X = X_1 \cdots X_k$ を 1 つの CS と考え, (ii) (1) の 1 つの AS 内の FD の反映と同じ方法を用いる, ことで扱える。この場合には一般に冗長な局所関係が ROW-NEST 操作により生じうるので RELATION-NEST 操作を用いるとよい。

(3) AS 外の属性も含んだ FD

$\mathcal{AS}$ X と X_2 ($X \cap X_2 = \phi$) なる属性集合があり $FD\ X \rightarrow X_2$ が成立するときは $GROUP-BY[X]$ による各部分関係では X_2 の値が定数になり冗長である。従って $GROUP-BY[X_2; X]$ により, JD の反映過程にこの FD を反映させるとよい。 FD を反映する一般的な方法としては次のようにする。(i) X をすべての $\mathcal{AS}$ の和集合とする。(ii) $X \rightarrow Y$ ($X \cap Y = \phi$) となる $Y (\neq \phi)$ が存在すれば $GROUP-BY[Y]$ を適用する。(iii) 与えられた関係 R の全属性集合を U とすると, (ii) により得られた各局所関係で成立する FD, JD を反映する。($U - Y$ 上の従属性は定理 1, 3, 4 より容易に求められる。) Y が FD 鎖のときも同様である。

(4) FD と JD の干渉

FD と JD の干渉により (i) JD の 1 つの成分内で成立する FD があればその成分をさらにいくつかの成分に分けた JD が含意される, (ii) JD の成分にまたがる FD により, もとの FD のみからは含意できない新たな FD が含意される, の 2 通りの場合が生じる。(i) の場合は成分内の FD が $\mathcal{AS}$ を変えなければ問題ないが, それ以外の場合には必ずしも同じ非正規関係を生じないことがある。(ii) の場合には次の定理を用いる。

[定理 6] 与えられた $JD\ j : * [Y_1, \dots, Y_m]$ および FD 集合 F に

対し, (i) $X \rightarrow A \in F^+$ ($X \not\supset A$), (ii) j のハイパ-グラフ G_j においてある AS Z と G_j から Z を除いて得られるある CC S があり, $S \ni A$ かつ $\bigcup_{i=1}^n Y_i - S \ni X$ となる, が成り立つとき FD $Z \rightarrow A$ が $F \cup \{j\}$ により含意される。

証) [BEERY81] の FD -EJD 則 あるいは [FAGIM8209] の 定理3 と [BEERF7708] の FD -MYD 則 より 容易に 導ける。

4.3. GROUP-BY 操作を行なう AS の順序付け

AS の順序付けについては (a) FD を考えない場合と (b) FD を考えた場合の 2 つを考察する。

2. JD のみを考慮した AS の順序付け

JD j のハイパ-グラフ G_j の 2 つの AS X_1, X_2 が $X_1 \cap X_2 = \phi$ となるときは $GROUP-BY[X_1], GROUP-BY[X_2]$ のいずれを先に適用するかを決定する有効な手段は得られていない。例えば生成される非正規関係のサイズに関して言えば, JD や FD の情報のみでなくインスタンスにも依存した問題である。 $X_1 \cap X_2 \neq \phi$ のときは AS の包含関係の半順序が利用できる。

例 2. 図 3 (a) の $JD * [ABC, ABD, BE]$ を満足する図 3 (b) の関係を考える。この JD のハイパ-グラフにおける AS は B と AB である。 AS として AB を用いれば CC は C, D, E で

$GROUP-BY[AB]; ROW-NEST[C; D; E]$

により図 3 (c) の非正規関係を得る。一方, AS として B を

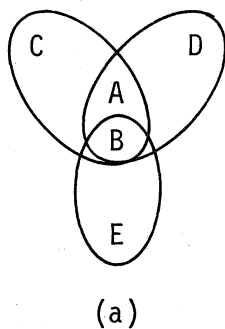
用いければ CC は E , ACD で

$GROUP-BY[B]; ROW-NEST[E; ACD]$

を施し, ACD 上でさらに AS A と CC C, D を得るので

$GROUP-BY[A]; ROW-NEST[C; D]$

を用いて図3(d)の非正規関係を得る。図3(c)では本質的に B の値にのみ依存していた E 上の属性値集合が A の値で細分化し重複して現われている。



(b)

A	B	C	D	E
1	1	1	1	1
1	1	1	1	2
1	1	1	2	1
1	1	1	2	2
2	1	2	3	1
2	1	3	3	1
2	1	3	3	2

(c)

A	B	C	D	E
1	1	[1]	[1]	[1]
			[2]	[2]
2	1	[2]	[3]	[1]
		[3]		[2]

(d)

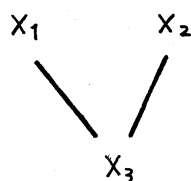
B	A	C	D	E
1	[1]	[1]	[1]	[1]
			[2]	[2]
	2	[2]	[3]	
		[3]		

図3. AS 間に包含関係がある JD

$X_1 \cap X_2 \neq \phi$ の場合は次の2通りである。

(i) $X_1 \cap X_2 \neq \phi$ であるが $X_1 \supseteq X_2$ や $X_2 \supseteq X_1$ が成立しないとき。

$X_3 = X_1 \cap X_2$ が CS であれば例2のように X_1 あるいは X_2 に先立って $GROUP-BY[X_3]$ を施すとよい。即ち AS の半順序が定まり



$GROUP-BY[X_3];$

$GROUP-BY[X_1];$
 $GROUP-BY[X_2];$ } どちらが先でもよい

のようになる。 X_3 がCSでないときも上と同様に考えてよい。
(生成される局所関係の数は単に $GROUP-BY[X_1]$, $GROUP-BY[X_2]$ を用いた場合と同じになる。)

(ii) $X_1 \supseteq X_2$ のとき。例2のように $GROUP-BY[X_2]$ を施し、 X_2 を除いて得られるCCに対し $ROW-NEST$ 操作を施し、次いで $X = X_1 - X_2$ に対し、 $GROUP-BY[X]$ を施すとよい。

[定理7] 関係 R および $JD \ j: * [Y_1, \dots, Y_m]$ が与えられたとする。 G_j のAS X_1, X_2 が存在し $X_1 \supset X_2$ を満足し、 X_2 に対するCCを $T, S_1, \dots, S_k$, また X_1 に対するCCを $T_1, \dots, T_\ell, S_1, \dots, S_k$ とする。 R に

$GROUP-BY[X_2]; ROW-NEST[S_1; \dots; S_k; T]$

$GROUP-BY[X_1 - X_2]; ROW-NEST[T_1; \dots; T_\ell]$

を施して得られる非正規関係を R_1 とする。 R に

$GROUP-BY[X_1]; ROW-NEST[T_1; \dots; T_\ell; S_1; \dots; S_k]$

を施して得られる非正規関係を R_2 とする。このとき以下が成立する。

(a) R_1 と R_2 は $T_1, \dots, T_\ell$ 上に同数の同じ局所関係をもつ。

(b) R_1 は $S_1, \dots, S_k$ 上に $|R[X_2]|$ 個の局所関係をもち、 R_2 は $S_1, \dots, S_k$ 上に $|R[X_1]|$ 個の局所関係をもつ。 $|R[X_1]|, |R[X_2]|$ はそれぞれ $R[X_1], R[X_2]$ の個数を表わし、 $|R[X_1]| \geq |R[X_2]|$ である。等号が成立するのは R が $X_2 \rightarrow X_1$ を満足するときで、

それ以外のときには R_2 が R_1 の $S_1, \dots, S_k$ 上の局所関係をいくつか重複してもつことになる。(証明略)

b. FD を考慮した AS の順序付け

4.2 で既に述べたように AS 間の FD は順序づけに利用できる。

例3. 図4(a) の JD * [AB, BCD, DE] を満足する図4(b) の関係を考える。この JD のハイパーグラフにおける AS は B と D である。B を先にした場合の操作系列は

$$\left. \begin{array}{l} \text{GROUP-BY}[B]; \text{ROW-NEST}[A; CDE] \\ \text{GROUP-BY}[C]; \text{ROW-NEST}[D; E] \end{array} \right\} \dots (*)$$

となる。今 FD $B \rightarrow D$ が成立するとすれば(*)の系列よりも

$$\left. \begin{array}{l} \text{GROUP-BY}[D]; \text{ROW-NEST}[ABC; E] \\ \text{GROUP-BY}[B]; \text{ROW-NEST}[A; C] \end{array} \right\} \dots (**)$$

の方が E 上の局所関係の数が一般に少ない非正規関係を生成する。(*)、(**)の適用結果をそれぞれ図4(c)、(d)に示す。

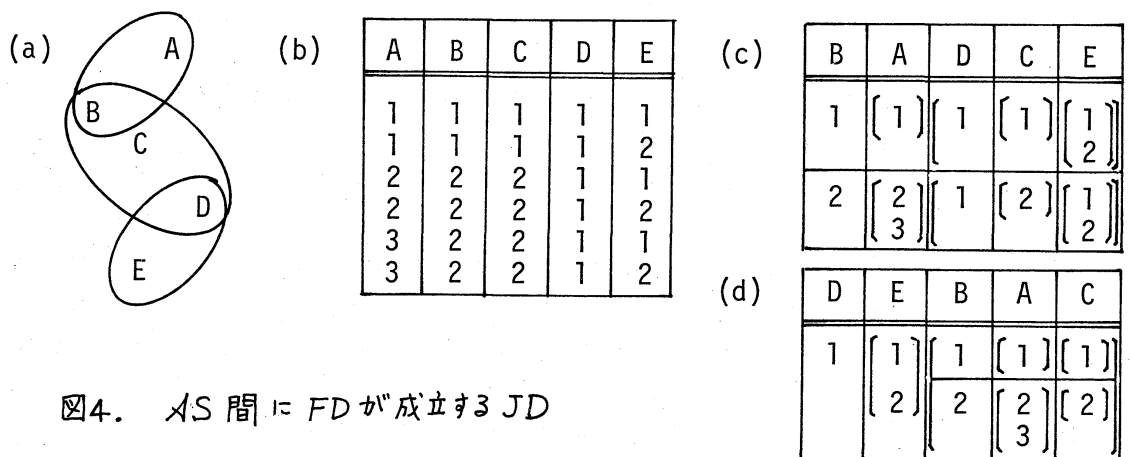


図4. AS 間に FD が成立する JD

αで考えた AS X, Y の包含関係も実は FD $X \rightarrow Y$ ($X \supset Y$) で表現できるので, AS の順序付けはこれらの FD 集合から 1 つの FD 鎖 $X_1 \rightarrow \dots \rightarrow X_k$ (X_i は AS の和集合) を求め, この FD 鎖を反映する GROUP-BY 操作を生成することにより扱える。上記 4.2 ~ 4.3 の議論をまとめて次の方法を得る。

FD と JD を反映した非正規関係の生成法。

- (1) 与えられた関係を R , 従属性集合を $\Sigma = F \cup \{j\}$ とする。定理 6 により新たな FD が得られればこれを F に加える。 j のハイパーグラフ G_j のすべての AS の集合を W_0 とする。
- (2) AS の順序付けを行なう FD 集合 O を次のように構成する。
 - (i) AS X_1, X_2 が $X_1 \supset X_2$ を満たせば $X_1 \rightarrow X_2$ を O に加える。
 - (ii) AS $X_0, \dots, X_k$ に対し $X_1 \dots X_k \rightarrow X_0$ が F より含意されればこれを O に加える。
 - (iii) O の FD に現れない AS X があれば自明な FD $X \rightarrow X$ を O に加える。
- (3) O より 1 つの FD 鎖 P を求める。FD 鎖の生成法は文献 [KAMBT83] に従う。 P を $V_1 \rightarrow V_2 \rightarrow \dots \rightarrow V_n$ とする。
- (4) 定理 2 により P の各属性集合に対し GROUP-BY 操作を施す。今 V_i に対し GROUP-BY 操作を施すとする。GROUP-BY 操作の場を W とすると $V_i \rightarrow Z$ となる属性集合 Z ($V_i \cap Z = \phi$, Z は FD 鎖でも同様に扱える) を F より求め, まず GROUP-BY [$Z \cap W$] を適用し, 次に GROUP-BY [V_i] を適用する。 G_j から V_i を除い

て得られる CC に対して ROW-NEST 操作を施す。(V_i 内に FD が成立すれば 4.2(1) を適用する。) F に $\phi \rightarrow V_i Z$ を加える。

4.4. 非正規関係上の制約

非正規関係が GROUP-BY 操作や ROW-NEST 操作により反映できる意味制約を考えると次の 2 種類に分けられる。

(1) [階層性] $R = X_0 X_1 \cdots X_n$ ($X_i \cap X_j = \phi$) 上の関係 R に対し

GROUP-BY [$X_n; X_{n-1}; \dots; X_2$]

を施して得られた非正規関係を R' とする。このとき各 X_i 生成部分関係において現われる X_{i-1} -値の集合は互いに他と素であるならば R は FD 鎖 $X_1 \rightarrow \dots \rightarrow X_n$ を満足している。($i=2, \dots, n$)

(2) [直積性] $R = X_0 X_1 \cdots X_n$ ($X_i \cap X_j = \phi$) 上の関係 R に対し

GROUP-BY [X_0]; ROW-NEST [$X_1; \dots; X_n$]

を施して得られる非正規関係の各組が一意的な X_0 -値と各 X_i ($i=1, \dots, n$) 上にただ 1 つの局所関係をもつとき、 R は $JD * [X_0 X_1, \dots, X_0 X_n]$ を満足している。

従って、上記 (1), (2) と定理 2.5 より素な FD 鎖や第一階層層従属性 (FOHD) は非正規関係上で完全に反映できることがわかる。従って、更新操作による非正規関係上のデータ操作を許しても上記の制約を管理すればもとの従属性を保存できる。同様に $\Sigma = \{ * [X_1 \cdots X_m, X_1 Y_1, \dots, X_m Y_m, X_m Y_{m+1}], X_m \rightarrow X_{m-1} \rightarrow \dots \rightarrow X_1 \}$ ($R = X_1 \cdots X_m Y_1 \cdots Y_{m+1}$) といった従属性は保存できる。

5. 含意従属性と非正規関係

含意従属性 (ID) は FD や JD を含んだ広いクラスの従属性であり, 射影や結合で閉じている [FAGI8004][HULL81] ため, 質問結果やビュー上の制約を記述する点で有用である。ID はテンプレート従属性 (TD) と拡張関数従属性 (XFD) の 2 つのクラスの従属性から成るといえる。本節では ID を反映する非正規関係の生成について基本的な考察を行なう。

[定理 9] [FAGIM8105] 属性集合 U 上の任意の TD 集合に対し, それと等価な U 上の 1 つの TD が存在する。 $U=AB$ のときは, U 上の任意の TD は自明な TD であるが, $*[A, B]$ と等価であるか, 次の TD と等価である。

A	B
a_1	b_1
a_2	b_2
a_2	b_1
a_1	b_1

定理 9 の 3 つめの TD は, $ROW-NEST[A; B]$ により, 各 A -値, B -値 がただ 1 つの局所関係に現われるような非正規関係を生じるための条件と等価となる。また定理 9 より, 任意の多値従属性 (MVD) の集合は 1 つの TD で表現できるため, 4 節の単 - JD の仮定では扱えなかつた推移的な MVD 集合も TD を反映する方法により扱えることがわかる。TD の特徴は, JD の場合と異なり局所関係間に干渉が生じることである。この

ため次の操作を導入する。

MERGE [Z with Y connected] : 本操作は Z, Y 上に局所関係をもつが $Z' \subset Z$, $Y' \subset Y$ 上には局所関係をもたない非正規関係 R に適用できる。本操作は以下の条件を満たす R の各極大組集合 S を1つの組 t に写像した非正規関係 R' を生成する。

(1) S の任意の組 t_i, t_j に対し S 中の組の系列 $t_{i_1}, \dots, t_{i_k}$ があり $t_{i_p}[Y] \cap t_{i_{p+1}}[Y] \neq \phi$ かつ $t_{i_1} = t_i, t_{i_k} = t_j$ となる。

(2) S の任意の2つの組 t_i, t_j に対し $t_i[Z] = t_j[Z]$ となる。

このとき $t[Z] = t_i[Z]$ かつ $t[R-Z] = \{ t_i[R-Z] \mid t_i \in S \}$ 。

ここで t を単に R' の組, $t_i[R-Z]$ を R' の部分組と呼ぶ。

[定理10] $U = XYZW$ ($X \sim W$ は互いに素) 上の関係 R に対し

GROUP-BY [X]; ROW-NEST [Y; Z; W]; MERGE [Z with Y connected]

を適用して得られた非正規関係を R' とする。 R' が (i) 各部分組に一意的な X -値をもち, (ii) 各組の Y -値集合は連結かつ他の組とは素となっている, という制約を満たすことと R が MVD $X \twoheadrightarrow Y \mid ZW, Y \twoheadrightarrow Z \mid XW$ を満たすことは同値である。(証明略)

定理10を一般化すれば MVD 鎖 $X_1 \twoheadrightarrow X_2 \twoheadrightarrow X_3 \twoheadrightarrow \dots$ という従属性を非正規関係により反映できることが示せる。

TD, XFD はそれぞれある種の JD, FD を含意することが知られており [PARE8208], これと定理1より適当な GROUP-BY 操作を用いると FD, JD の反映に帰着できる。

謝辞 日頃 御討論 頂く 矢島研究室の諸氏および [KAMBT83] の共同研究者
 であり有益な御助言, 御討論 頂く 神戸大学教養部 田中克己 助手 (現 南カ
 フォルニア大学) に 深謝する。

参考文献

- [BEERR8001] Beer, C. and Rissanen, J. "Faithful Representations of Relational Database Schemes", IBM Research Report, RJ2722, Jan. 1980
- [BEERF7708] Beer, C., Fagin, R. and Howard, J.H. "A Complete Axiomatization for Functional and Multivalued Dependencies in Database Relations", Proc 1977 ACM SIGMOD Int. Conf. on Management of Data, pp.47-61, Aug. 1977.
- [BEERV81] Beer, C. and Vardi, M.Y. "On the Properties of Join Dependencies", Advances in Data Base Theory, (Eds. Gallaire, H. et al.), Plenum Press, New York, 1981
- [Codd 7006] Codd, E.F. "A Relational Model of Data for Large Shared Data Banks", CACM, Vol.13, No.6, pp.377-387, June 1970
- [Fagi 8004] Fagin, R. "Horn Clauses and Database Dependencies", Proc. 12th Ann. ACM Symp. on Theory of Computing, pp.123-134, April 1980
- [FAGIM8105] Fagin, R., Maier, D., Ullman, J.D. and Yannakakis, M. "Tools for Template Dependencies", IBM Research Report, RJ3033, May 1981
- [FAGIM8209] Fagin, R., Mendelzon, A.O. and Ullman, J.D. "A Simplified Universal Relation Assumption and its Properties", ACMTODS, Vol.7, No.3, pp.343-360, Sept. 1982
- [HULL 81] Hull, R. "Implicational Dependency and Finite Specification", Technical Report, Computer Science Department, University of Southern California, 1981
- [JAESS8203] Jaeschke, G. and Schek, H.-J. "Remarks on the Algebra of Non First Normal Form Relations", Proc. of ACM SIGACT-SIGMOD Symposium on Principles of Database Systems, pp.124-138, March 1982
- [KAMBT7911] Kambayashi, Y., Tanaka, K. and Yajima, S. "Semantic Aspects of Data Dependencies and Their Application to Relational Database Design", COMPSAC, pp.398-403, Nov. 1979
- [KAMBT8201] Kambayashi, Y., Tanaka, K., Takeda, K. and Yajima, S. "Representation of Relations for Database Output Utilizing Data Dependencies", Proc. of 15th Hawaii ICSS, pp.69-78, Jan. 1982
- [KAMBT83] Kambayashi, Y., Tanaka, K. and Takeda, K. "Synthesis of Unnormalized Relations Incorporating More Meaning", to appear in the Special Issue on Databases of International Journal of Information Sciences, 1983
- [KITAK8201] Kitagawa, H. and Kunii, T.L. "Form Transformer - Formal Aspects of Table Nests Manipulation", Proc. of 15th Hawaii ICSS, pp.132-141, Jan. 1982
- [LEDOP8209] LeDoux, C.H. and Parker, D.S., Jr. "Reflections on Boyce-Codd Normal Form", Proc. VLDB, pp.131-141, Sept. 1982
- [LIEN 8204] Lien, Y.E. "On the Equivalence of Database Models", JACM, Vol.29, No.2, pp.333-362, April 1982
- [LUO-Y8104] Luo, D. and Yao, S.B. "Form Operation By Example - a Language for Office Information Processing", Proc. of ACM SIGMOD Int. Conf. on Management

- of Data, pp.212-223, April 1981
- [MAIEM7912] Maier,D., Mendelzon,A.O. and Sagiv,Y. "Testing Implications of Data Dependencies", ACMTODS, Vol.4, No.4, pp.455-469, Dec. 1979
- [MAKI 7710] Makinouchi,A. "A Consideration on Normalized Form of Not-Necessarily-Normalized Relation in the Relational Data Model", Proc. VLDB, pp.447-453, Oct. 1977
- [PARE 8208] Paredaens,J. "A Universal Formalism to Express Decompositions, Functional Dependencies and Other Constraints in a Relational Database", Theoretical Comp. Sci. 19, pp.143-160, August 1982
- [SADRU8004] Sadri,F. and Ullman,J.D. "A Complete Axiomatization for a Large Class of Dependencies in Relational Databases", Proc. 12th Ann. ACM Symp. on Theory of Computing, pp.117-122, April 1980
- [SCIO 8104] Sciore,E. "Real-World MVD's", Proc. of ACM SIGMOD Int. Conf. on Management of Data, pp.121-132, April 1981
- [SHU-L8209] Shu,N.C., Lum,V.Y., Tung,F.C. and Chang,C.L. "Specification of Forms Processing and Business Procedures for Office Automation", IEEE Trans. on SE, Vol.SE-8, No.5, pp.499-512, Sept. 1982
- [ULLM 80] Ullman,J.D. Principles of Database Systems, Computer Science Press, 1980